

所蔵品展 No.160

## 長府藩の御用絵師

生誕 110年 桂ゆき

会期: 5.30[火]~7.9[日]

休館日: 月曜日

開館時間: 9時30分~17時 (入館は16時30分まで)

料金: 一般 210円 (160円)、大学生 100円 (80円)

※( )内は20名以上の団体料金。

※下関市と北九州市在住の65歳以上の方は半額免除。

※18歳以下、および高等学校、中等教育学校、特別支援学校に在学の生徒は、観覧料が免除されます。

※観覧料免除にはいずれも公的証明書が必要です。

※最新の情報は美術館HPをご確認ください。

## 長府藩の御用絵師

江戸時代後期、長府藩に仕える御用絵師は、笹山家、度会家、狩野家、諸葛家の4家が担っていました。このたびは江戸時代中期以降の御用絵師たちの活動を、彼らが弟子入りした木挽町狩野家の当主たちの作品を交えた、26点でご紹介します。



出品作品: (左から) 度会洞玉《黄石公・張良図》、長沢栄州《寿老》(部分)、狩野芳崖《騎射三題》(寄託)

## 生誕 110年 桂ゆき

桂ゆき(1913 - 1991)は、前衛の女流画家として、戦後美術界をけん引する芸術家のひとりでした。東京生まれ東京育ちの彼女ですが、先祖代々長府毛利家に仕えた上級藩士の家系に生まれ、長府出身の父・桂弁三は東京大学で金属工学の教授を務めていました。また仲の良かった弟の桂英澄は直木賞作家として知られており、彼の書いた本の装丁をゆきが手掛けることもありました。

彼女はコラージュをその根幹に置きながらも、一見しただけでは同一人物の手によるものと思えないほど多彩な表現を展開しました。また幅広い交友関係、行動力、そして生き方そのものが、ときに彼女を通してみた社会あるいは世界をうつす作品として生み出されました。

このたび生誕110年の節目に、初期の作品から晩年までの作品27点を展示し、改めて桂ゆきの魅力をご紹介します。



出品作品: (上から) 桂ゆき《物価高》1967年、桂ゆき《手相》1985年

## 期間限定展示 杏橋忠次郎の植物画

会期：5月30日（火）～6月25日（日）

会場：美術館 1階展示室

かつての下関市農業試験場（旧下関市園芸センター）の初代場長を務めた杏橋忠次郎（きょうばし・ただじろう）による植物画を、期間限定で約40点ご紹介します。「下関の牧野富太郎」さながらの、精緻なボタニカルアートの世界をお楽しみください。

出品作品：（上から）《カクチョウラン》、《ルリマツリモドキ》



## 所蔵品展の 関連催事

### ■ ギャラリートーク（学芸員による展示解説）

日時：6月3日、17日、7月1日（各土）13時30分～（約1時間）

会場：2階展示室

- ・事前予約は不要です
- ・参加は無料ですが、所蔵品展の観覧受付が必要です

下関市立美術館  
Shimonoseki City Art Museum

（担当：関根）

〒752-0986 山口県下関市長府黒門東町1-1

TEL. 083-245-4131 FAX. 083-245-6768

E-Mail kibijuts@city.shimonoseki.yamaguchi.jp

HP <https://www.city.shimonoseki.lg.jp/site/art>

詳細はHPへ！

下関市立美術館